

「データセンター廃熱利用実装促進事業」採択について  
～エネルギー効率の向上と地域共生等を図る廃熱有効利用モデルの構築を目指す～

2026 年 7 月 16 日

東京電力ホールディングス株式会社

当社は、東京都産業労働局が公募した「データセンター廃熱利用実装促進事業」（以下「本事業」）に代表事業者として応募し、6 月 30 日、東京都に採択されました。

データセンターは、デジタル社会を支える基礎インフラであり、生成 AI の急速な普及に伴って、社会的な意義が大きく増えています。一方で、電力需要の増大と脱炭素、まちづくりとの整合などの課題も顕在化しており、地域や近隣にお住まいの方の理解と信頼を得ながら整備を進めていくことも重要になっています。

例えば、データセンターでは安定的な稼働のために、空調などによるサーバーの冷却が必要ですが、冷却には大量の電気を消費するため、エネルギーの効率的な活用が求められます。また、生成 AI の計算に使われる画像処理半導体（GPU）は従来の半導体に比べて、消費電力や発熱量も大きく、発生する熱の効率的な活用は今後、さらに重要性を増していきます。

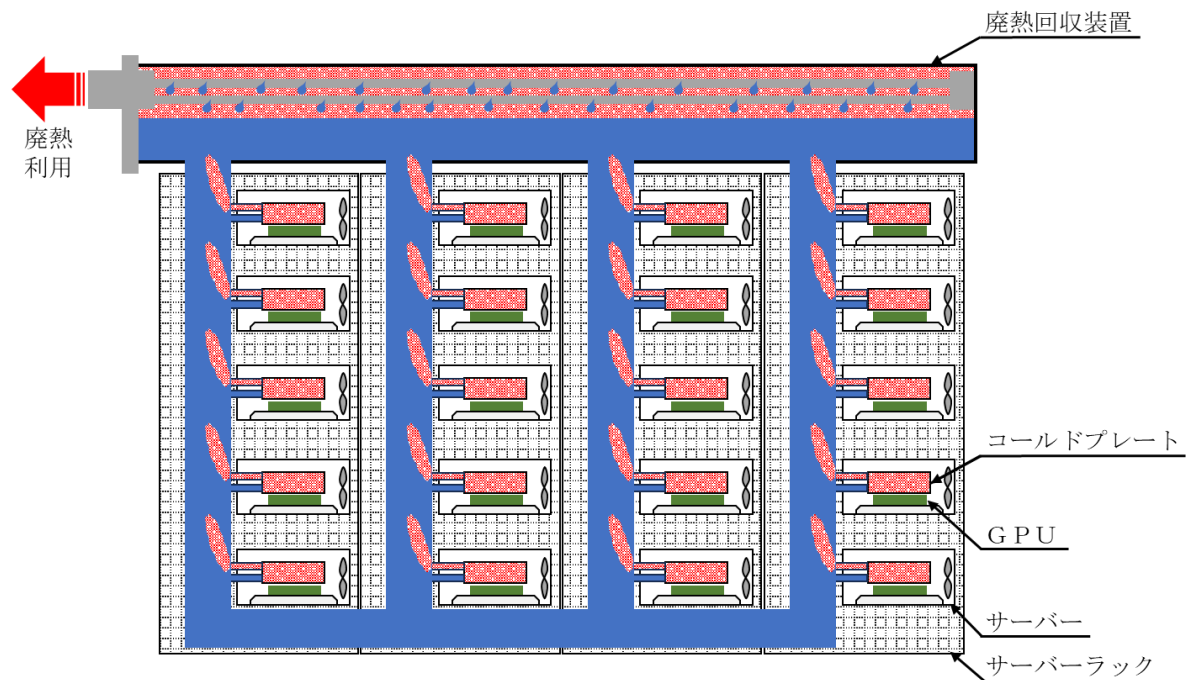
本事業では、データセンターで発生し廃棄される熱（廃熱）の利用を目的に、先駆的な技術・サービスおよび地域共生等を図るためのモデル構築に取り組みます。具体的には、当社が開発を進める「WaBiCo<sup>※1</sup>」の技術を活用し、これまでよりも高温で利用価値のあるデータセンターの廃熱を回収して、サーバーールーム等の冷房への利用や、近隣の温浴施設、工場などに供給するシステムの早期実用化に向けて取り組みます。これによりデータセンターのエネルギー効率が向上し、PUE<sup>※2</sup>の改善に加え、廃熱の利用による環境負荷低減を目指します。

当社は、本事業での取り組みを通じて、データセンターの廃熱利用を通じた地域貢献とともに、エネルギーの有効活用によるカーボンニュートラル社会の実現に取り組み、第五次総合特別事業計画において戦略目標として掲げる「2040 年度までの首都圏のデータセンター需要伸び率世界トップクラス」の実現を目指してまいります。

※1 WaBiCo…Watt Bit Cogeneration の略。電力（Watt）を大量消費する高性能な電子機器（Bit）を、計算資源だけでなく、熱エネルギー源ととらえて活用し、エネルギー効率を高める概念。

※2 PUE …Power Usage Effectiveness の略。データセンター全体の消費電力から、サーバーなどの IT 機器の消費電力を割った値で、数値が小さいほど（1 に近いほど）エネルギー使用の効率が良い。

<データセンター廃熱回収・利用メカニズム（イメージ）>



サーバーのGPUを独自のコールドプレートにより直接冷却し、  
そこから発生する熱を回収して利用するシステム

<本事業の概要>

|        |                                     |                  |
|--------|-------------------------------------|------------------|
| 事業体制   | 代表事業者                               | 東京電力ホールディングス株式会社 |
|        | 構成事業者                               | 株式会社 MESH-X      |
|        |                                     | 株式会社 NHK テクノロジーズ |
| 事業期間   | 2026 年 7 月 16 日から 2028 年 3 月 31 日まで |                  |
| 実施場所   | 都内データセンター                           |                  |
| 東京都負担額 | 東京都が定める経費について 5.2 億円を上限として一部負担      |                  |

以 上